

## 【2017 年度 シラバス】

時間割コード		開講区分	春・夏学期
ナンバリングコード※	3B1403	曜日・時間	集中
開講科目名	フィールド交流実践論	単位数	2
担当教員	森栗茂一	年次	全研究科、学部3年以上の全学生、社会人（若干名）
講義題目	お遍路コミュニケーション		
開講言語	日本語		
授業の目的	お遍路は、四国八十八ヶ所巡礼と呼ばれ、世界最長の循環型巡礼であり、単に宗教にとどまらず、若者、高齢者が、自分を見つめるために挑戦している。全体を通して歩くと50日ほどかかるが、今回は4日分「区切り遍路（徳島県牟岐—高知県高知市）」を体験する。本授業では、多様な専攻の学生が、お遍路のお接待や景観、人と人、人と風土との出会いから、訪問術を学ぶ。また歴史文化遺産の道を歩くことで得られるコミュニケーションについて学ぶことを目的とする。		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体を使った現場訪問の体験、そのふりかえりにより、現場力とコミュニケーション力を向上できる。</li> <li>・お遍路体験による現場力とコミュニケーション力を、自己の研究生活、日常生活、市民生活のなかで活かす態度を身につけることができる。</li> <li>・訪問で得られた成果・経験を、カフェ対話の場で多くの人に提供し、共有する態度を身につけることができる。</li> </ul>		
履修条件・受講条件 ※	<p>JEES 学生教育研究傷害保険 の加入を必須とする</p> <p>お遍路の体感的なコミュニケーションデザインの体験に関心のある院生の受講を歓迎する。体力に自身がない、課題を抱えている学生にも可能な範囲で対応する。経験を重視するため受講人数に限りがあり。第1回での動機等の対話を考慮して決定し、即日通知する。決定者は移動手段の確保をする。</p> <p>高速バス予約については、連休ははやくから満席になることがある。</p>		
授業計画	<p>第1回：4/19 6限 オリエンテーション</p> <p>第2回：4/26 6限 四国遍路とお接待の歴史と意味、受講動機の共有化</p> <p>第3回～12回</p> <p>5/3 牟岐駅発 13:00 集合（阪神梅田 7:55 高速舞子 9:00 牟岐 12:19 着）徒歩 18 km 泊：宋喰民宿</p> <p>5/4 宋喰→仏海庵→佐喜浜:徒歩 14 km⇒バス:岬ホテル前→泊：第24番札所最御崎寺宿坊 または徒歩 40 km</p> <p>5/5 最御崎寺→第25番札所津照寺⇒バス：元橋→金剛頂寺→きららメッセ⇒奈</p>		

	<p>半利駅⇒唐浜駅→第 26 番札所神峰寺→唐浜駅⇒西分駅→泊：香南市サイクリングターミナル 徒歩 22 km</p> <p>5/6 泊宿→夜須駅 3 km⇒のいち駅→第 27 番札所大日寺→第 28 番札所国分寺→第 29 番札所善楽寺→バス：一宮営業所（高知市）：徒歩⇒高速バスで帰宅 19 km</p> <p>第 13 回：5/10 6 限 振り返り</p> <p>第 14 回：5/17 6 限 カフェでのプレゼンの作業、分担決定</p> <p>第 15 回：6/4（木）曾根崎まちみちカフェにて、まちなかでプレゼンし、語り合う。</p>
授業外における学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、ブログを読み、オリエンテーションの準備に備える。準備の整ったもののみ、履修を許可する。（8 時間）</li> <li>・日頃からまち・みちに関心を持ち、なぜ遍路について感心をもったのかを、論理的に説明する準備をする。（5 時間）</li> <li>・曾根崎まちみちカフェにて、遍路・歩きとコミュニケーションに関してまちなかでプレゼンし、語り合う。（5 時間）われる。</li> </ul>
教科書・参考資料 ※	『お遍路とコミュニケーション』デジタル印刷、授業時配布
参考文献 ※	<p>ブログ：森栗茂一のコミュニティ・コミュニケーション</p> <p>砂の器（監督野村芳太郎）</p> <p>中山和久『巡礼・遍路がわかる事典』日本実業出版、1575 円</p> <p>辰濃和男『四国遍路』岩波書店</p> <p>司馬遼太郎『空海の風景』</p>
成績評価	<p>授業への参加 70%，お遍路カフェでの話題提供・準備 30%</p> <p>・特記.....教室授業の欠席は、できるかぎり通信、補講等でサポートする。</p>
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受講するにあたり、特別な配慮を必要とする学生は初回授業のガイダンス後に申し出ること。</li> <li>・ディスカッションと活動を中心に授業を進めるので、受講者の積極的な参加・体感と現地でのふりかえりにおける発言、事後のワークショップへの参加を期待する。</li> <li>・お遍路の意義＝犬は歩いても棒にしかあたらないが、人が歩けばコミュニケーションに当たる。そして、自分の内面、悩みを突破する力、可能性に出会う。己の能力、研究知識を活かして社会を変えていく力を得る。勇気を得る。人は限界まで歩くことによって、風土に出会い、人に出会う。一緒に歩く仲間と語り合う。信仰・歴史ではなく、偶発的出会い、身体を使った異分野の仲間との語り合い、大自然と悠久の文化空間のなかで誘われるコミュニケーション力を養う。</li> <li>・本授業は、霊場をまわりますが、宗教行為を意図しませんし、強要をしません。しかし、文化様式としての読経などの行為をプレゼンすることはありますし、参加も拒否するものではありません。</li> </ul>

<p><b>特記事項</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受講するにあたり、特別な配慮を必要とする学生は初回授業のガイダンス後に申し出ること。</li> <li>・ディスカッションと活動を中心に授業を進めるので、受講者の積極的な参加・体感と現地でのふりかえりにおける発言、事後のワークショップへの参加を期待する。</li> <li>・本授業は、霊場をまわりますが、宗教行為を意図しませんし、強要をしません。しかし、文化様式としての読経などの行為をプレゼンすることはありますし、参加も拒否するものではありません。弘法大師の思想はユニバーサルであり、多様な考え、宗教を受け入れるものです。</li> <li>・障がい等により本講義の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属の教務関係窓口（教務係、大学院係など）または全学教育推進機構等事務部横断教育係に事前に相談するとともに、初回授業等、早期に授業担当教員に申し出てください。</li> </ul>
<p><b>キーワード ※</b></p>	<p>お遍路、歩き、コミュニケーション、観光、</p>